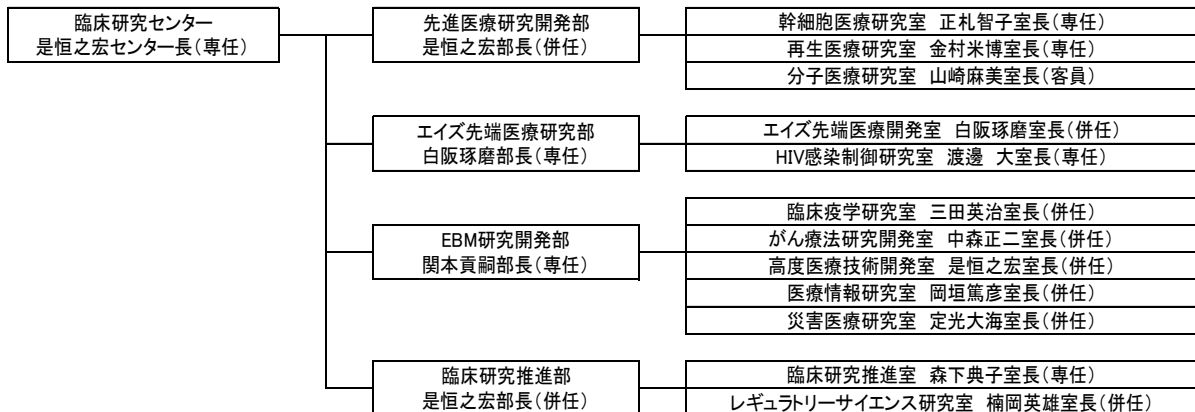


臨床研究センター

センター長 是恒之宏

当臨床研究センターもセンターとなって8年目を迎えた。国立病院機構では平成17年度より新たな研究業績評価が開始されたが、当院は平成18年度2位以外は常に1位を獲得している。この業績評価は、治験、臨床研究プロトコル作成、特許の取得、競争的研究費の獲得、論文著書、国内外の学会発表などの総合力で分析される。日常臨床が多忙を極める中で、治験を含めた臨床研究への積極的な大阪医療センターの取り組みが評価されたものと考えられる。平成20年度より、当院および九州医療センターはその業績を認められ、臨床研究部から臨床研究センターへランクアップとなった。それにともない、組織は1部5室から2部9室と改変し、それまで治験管理センターとして病院内の組織であった治験管理部門を新たに臨床研究も含めた支援室、臨床研究推進室として研究センターの元におくこととなった。平成23年度からは、新たに高度医療技術開発室、レギュラトリーサイエンス研究室を開設し、3部11室となった。これまでと同様、文部科研に応募を希望する医師については、併任発令を行い、これに対応した。また、院内の多くの医師が臨床研究に携わっていること、本部からの研究助成金を研究業績に応じて一部分配することにより研究推進を図る目的で、平成18年度より医長以上の併任、英文論文筆頭著者併任をおこなうこととしている。平成25年度DMAT西日本拠点に指定されたのに伴い、平成26年度から災害医療研究室を加え4部12室となった。平成27年度の構成は以下のとおりである。



※専任室員
 山本篤世室員(幹細胞医療研究室)
 隅田美穂室員(再生医療研究室)
 兼松大介室員(再生医療研究室)

2015.4.1

先進医療研究開発部

幹細胞医療研究室

幹細胞医療研究室では、ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）を用いて、再生医療の実現化に向けた技術開発研究を実施している。神経疾患の再生医療実現を目指し、iPS 細胞から臨床グレードの神経幹細胞（ニューロンやグリア細胞を供給する能力を持った幹細胞）へと誘導する方法の開発を進めている。また、神経疾患患者の検体から iPS 細胞を樹立し、神経幹細胞の誘導及び神経系細胞への分化を行い、疾患発症機序の解明にも取り組んでいる。

再生医療研究室

再生医療研究室では、各種幹細胞および免疫細胞等のヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行なっている。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施している。さらに悪性脳腫瘍の分子診断体制を構築するための多施設共同研究体制の構築を実施した。

分子医療研究室

分子医療研究室の主な研究課題は、難治性脳形成障害症（Fetal Brain Malformation; FBM）の胎児診断における診断基準の作成と患者由来検体の収集とその遺伝子解析及び臨床像解析の多施設共同研究の体制強化である。現在までに FBM 約 350 例が登録されている。従来の遺伝子解析に加え標的遺伝子検索システム（target sequencing system）と次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析（whole exome sequencing ; WES）を施行し、新規遺伝子変異を同定してきた。①脳室拡大が主な所見の水頭症群②全前脳胞症の群③小頭症群④細胞移動障害を呈する群④骨系統疾患の群⑤後頭蓋窩フリーエコー病変⑥大頭症群⑦二分脊椎症群⑧胎内頭蓋内出血あるいは水無脳症・裂脳症・孔脳症群。⑨脳梁欠損群において解析遺伝子のパネル化作成にむけて準備をしている。

エイズ先端医療研究部

エイズ先端医療開発室

HIV 感染制御研究室

海外同様、わが国、特に大阪でも HIV 感染症患者数は増え続けており、毎年、新規 HIV 感染者、エイズ患者数は増加の傾向にある。治療の進歩によって HIV 感染症の予後は大きく改善されたが、エイズ医療では多くの課題が未だ残されている。約 20 年以上前に血液製剤で感染した患者の多くは C 型肝炎との重複感染であり治療が困難な例が多い。その後、増えている性感染症としての HIV 感染症患者では 20 歳代、30 歳代が多く、社会的、経済的に不安定な者も少なくなく、セクシャリティーなどマイノリティーでの課題も抱えている。当研究室では、この様な多くの課題の中で、HIV 感染症治療、エイズ医療の分野を中心とした研究を進め、主に厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業、財団法人友愛福祉財団の調査研究事業、独立行政法人国立病院機構の共同研究等に取り組んできた。エイズ先端医療研究部はエイズ先端医療開発室（白阪が室長を兼務）と HIV 感染制御研究室（渡邊大室長）から成り、

前者は医療についての研究、後者は基礎的研究を主に行っている。服薬アドヒアランスの向上に関する研究班、HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究班では分担研究者と共にHIV感染症のチーム医療の在り方、エイズ看護の在り方、長期療養の問題等と取り組んで来た。今後もエイズの治療と医療に付き研究を進める。

EBM 研究開発部

臨床疫学研究室

臨床疫学研究室では、臨床疫学・アウトカムリサーチの実施基盤を確立し、データの集積・解析を行いつつエビデンスを形成し、コストベネフィットを解析する形態の臨床研究を行っている。特に消化器疾患診療に関する薬剤・機器臨床試験の他、当院の政策医療である肝臓病の診療に役立つ臨床研究を推進している。平成26年度も厚生労働科研、国立病院機構共同研究などの公的助成や民間助成を得て、1)C型肝炎治療の効果予測因子、2)B型肝炎に対する核酸アナログの耐性変異の解析、3)アデホビル・テノホビルの腎機能障害の検討を行い、成果をあげている。

がん療法研究開発室

日本人の半数はがんに罹患し、全死因の約1/3はがんによる死亡となっており、がんに対する有効な治療法の開発は急務であり、がん治療成績向上を目的とした科学的根拠に基づいた効果的ながん治療法の開発が求められている。本研究室では、AMEDなどの公的助成や民間助成を獲得し、最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しい癌治療法の開発を行っている。基礎研究においては、がん組織を利用したがんにおける分子異常を探り、それに基づいた **translational research** を公的研究機関や企業とともに広く行い、新規治療薬の開発に参加している。臨床面においては、全国規模や **world wide** な多施設共同臨床試験に参加するとともに、臨床試験の企画立案を行い、がん治療における新標準的治療の確立を図っている。

高度医療技術開発室

近年における医療を取り巻く情報処理や画像処理の技術革新により、診断、治療における医用画像診断装置の利用範囲は拡大しており、著しいイノベーションを引き起こしている。医用画像診断装置の技術開発により低侵襲化、従来視覚化困難であった部位や現象の画像化が可能になりつつあり、そこから新たな治療が生まれる可能性がある。これらの技術開発には医工連携すなわち病院、大学、企業との連携体制の構築が必要であるが、米国における産学連携の仕組みや組織と比較すると本邦ではまだまだ発展の余地が多いと言える。病院における医療現場のニーズを企業が保有している技術開発力や大学の基礎医学研究能力に結び付けながら、常に新しい高度医療技術の開発に取り組んでゆくことが、病院に付属する本研究室の最も重要な役割である。平成24年度より循環器系研究室員を配置し、医用画像診断装置の技術開発を大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座とともに推進している。

医療情報研究室

医療情報研究室では、医療への IT 応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。病院において実稼働している病続情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関するシステムの検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術に関連した研究も行っている。早急に実用化することを求められている災害時の国内標準電子カルテについて、ひな形を作成し、熊本地震で実用に供した。

SS-MIX、SS-MIX2、MML、openEHR といった標準規格を通して異なる電子カルテシステム間のスムーズな連携についても研究を行なっている。国内で行なわれている医療機関間のデータ共有に関する主要な研究プロジェクトのうち代表的な3つのプロジェクト、すなわち、国立病院機構の「電子カルテデータ標準化等のためのIT基盤構築事業」、京都大学が主導する「次世代医療ICTワーキンググループ事業-千年カルテプロジェクト」、および大阪大学が主導する「病院情報システムデータを利用した横断的研究基盤構築に関する研究」に参加した。

平成23年年末に更新した電子カルテシステムは、岡垣室長を中心に開発してきたカード型カルテシステムの発展をめざすと同時に経営分析的な視点を新たに研究対象に加えている。平成26年1月より実用化された救命救急外来経過表は、救命救急外来の診療速度についてける国内で最も進んだ電子カルテとして大きな注目を集め、東京大学、京都大学、沖縄中部病院など、国内の一流研究・医療機関より見学を受け入れた。

また、これまでより災害医療研究室と共同で公的研究費助成を受け国内の甚大災害対策に貢献してきたが、災害関連の研究として平成27年度より厚労省指定研究「首都直下地震に対応したDMATの戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」を2年間実施中である。

災害医療研究室

平成25年10月より厚生労働省医政局災害医療対策室DMAT事務局が開設された。それに合わせて、臨床研究センターに災害医療研究室が新設され、災害医療に関する調査研究を行っている。平成25年度の厚生労働科学研究費補助金(H25-特別-指定-023)による「南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究」、平成26年度からの厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業(H26-医療-指定-023)による「首都直下地震に対応したDMATの戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」を主な研究テーマとして行ってきた。厚生労働科学研究費補助金地域医療開発推進研究事業の「東日本大震災からみた今後の災害医療体制のあり方に関する研究」、及び健康安全・危機管理対策総合研究事業の「災害時における医療チームと関係機関との連携に関する研究」では災害時に用いる標準的災害診療記録票に関する研究を行い、作成した診療記録票は実用化に至っている。今後も南海トラフ巨大地震への医療対応を継続する研究テーマとし、DMAT及び国立病院機構の災害医療における役割や消防あるいは警察機関との連携に関する研究も行う予定である。

臨床研究推進部

臨床研究推進室

臨床研究推進室は、治験や臨床研究の円滑な実施とその質を保証することを目的として平成 11 年 4 月に「治験管理センター」として開設され、本年度で 16 年目を迎えている。平成 20 年度からは臨床研究部が臨床研究センターに昇格したのを機に、「治験管理センター」から「臨床研究推進室」へと組織および名称変更を行った。

臨床研究推進室には「治験管理部門」「臨床試験支援部門」があるが、治験管理部門が、治験以外の臨床研究支援も含め、活動の中心となっている。主な活動として、治験の全体的なコーディネーションを担うとともに、治験の契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している他、受託研究審査委員会（IRB）事務局機能も併せ持っている。

平成 26 年度には、厚生労働省より「質の高い倫理審査が行える委員会（認定倫理審査委員会）」として認定を受けることができた（平成 27 年 3 月 31 日付）。

レギュラトリーサイエンス研究室

レギュラトリーサイエンスは、平成 23 年 8 月の科学技術基本計画では「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づき的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会とも調査の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義されている。平成 26 年 11 月には、薬事法が「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に改正され、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」が制定された。いずれも平成 27 年 11 月から施行されている。このようなレギュラトリーサイエンスの対象領域の拡張を踏まえ、当研究室では、医師、医療従事者のみならず、他分野の研究者、知識人との連携・協力により、特に、再生医療・細胞治療・遺伝子治療といった先端医学、ゲノム科学をとり入れた臨床研究、あるいは新たな感染症対策などの分野において、先進医療について、最新の科学的技術・知識に基づく予測・評価を行うとともに、社会との調和を図ることをテーマとしている。

【2015 年度 研究発表業績】

A-0

Chishaki A, Kumagai N, Takahashi N, Saikawa T, Inoue H, Okumura K, Atarashi H, Yamashita T, Origasa H, Sakurai M, Kawamura Y, Kubota I, Matsumoto K, Kaneko Y, Ogawa S, Aizawa Y, Chinushi M, Kodama I, Watanabe E, Koretsune Y, Okuyama Y, Shimizu A, Igawa O, Bando S, Fukatani M : Non-valvular atrial fibrillation patients with low CHADS2 scores benefit from warfarin therapy according to propensity score matching subanalysis using the J-RHYTHM Registry. 「Thrombosis Research」 136 : P267-273、2015 年 6 月 11 日

Abe H, Koretsune Y : New Modified CHA₂DS₂-VA Scoring System for Japanese Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation. 「Circulation Journal」 79(8) : P1682-1684、2015 年 6 月 24 日

Koretsune Y, Yamashita T, Kimura T, Fukuzawa M, Abe K, Yasaka M : Short-Term Safety and Plasma Concentrations of Edoxaban in Japanese Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation and Severe Renal

Impairment. 「Circulation Journal」 79(7) : P1486-1495、2015年6月25日

Kamae I, Hashimoto Y, Koretsune Y, Tanahashi N, Murata T, H Phatak, L.Z.Liu, A.C.Tang, P.F.Wang, Okumura K : Cost-effectiveness Analysis of Apixaban against Warfarin for Stroke Prevention in Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation in Japan 「Clinical Therapeutics」 37 (12) : P2837-2851、2015年10月5日

Sakaguchi T, Yasumura K, Nishida H, Inoue H, Furukawa T, Shinouchi K, Miura H, Miyazaki K, Hamano G, Koide M, Abe H, Date M, Hirooka K, Koretsune Y, Kusuoka H, Yasumura Y : Quantitative Assessment of Fluid Accumulation Using Bioelectrical Impedance Analysis in Patients With Acute Decompensated Heart Failure. 「Circulation Journal」 79 (12) : P2616-2622、2015年11月25日

Shimada Y, Yamashita T, Koretsune Y, Kimura T, Abe K, Sasaki S, M Mercuri, C T.Ruff, R P.Giugliano : Effects of Regional Differences in Asia on Efficacy and Safety of Edoxaban Compared With Warfarin – Insights From the ENGAGE AF-TIMI 48 Trial – 「Circulation Journal」 79 (12) : P2560-2567、2015年11月25日

Inoue H, Uchiyama S, Atarashi H, Okumura K, Koretsune Y, Yasaka M, Yamashita T, Ohnishi M, Yagi N, Fukaya T : Post-marketing surveillance on the long-term use of dabigatran in Japanese patients with nonvalvular atrial fibrillation : Preliminary report of the J-dabigatran surveillance 「Journal of Arrhythmia」 doi:10.1016/j.joa.2015.11.008、2016年1月16日

Hori M, Matsumoto M, Tanahashi N, Momomura S, Uchiyama S, Goto S, Izumi T, Koretsune Y, Kajikawa M, Kato M, M Cavaliere, Iekushi K, Yamanaka S, :Predictive factors for bleeding during treatment with rivaroxaban and warfarin in Japanese patients with atrial fibrillation-Subgroup analysis of J-ROCKET AF 「Journal of Cardiology」 doi:10.1016/j.jjcc.2015.12.003、2016年1月18日

A-4

是恒之宏 : エドキサバンを知る 「不整脈治療 up date 第3巻」 : P121-130、医薬ジャーナル社、2015年4月20日

是恒之宏 (編集) : 「ファーマナビゲーター 抗凝固療法編」 メディカルレビュー社、2015年4月25日

是恒之宏 : 新規経口抗凝固薬による非弁膜症性心房細動の脳塞栓予防 「Pharma Medica」 33 (5) : P43-47、メディカルレビュー社、2015年5月10日

是恒之宏 : 心房細動と心原性脳塞栓症ー心房細動治療(薬物)ガイドラインを踏まえてー 「脳と循環」 20 (2) : P123-126、メディカルレビュー社、2015年5月20日

是恒之宏 : リスクを有する非弁膜症性心房細動に対する抗凝固療法は新規抗凝固薬かワルファリンか? (CQ回答) 「CORE JOURNAL 循環器 2015 春夏号」 P98-103、ライフサイエンス出版、2015年5月25日

是恒之宏：新規抗凝固薬を使うーエドキサバン「月間薬事」57(7)：P1047-1051、じほう、2015年7月1日

是恒之宏：高齢心房細動患者の合併症を踏まえた抗凝固療法を考える「Medical Tribune」、48(35)：P8-9、(株)メディカルトリビューン、2015年8月27日

是恒之宏：ガイドラインここがポイント！心房細動治療（薬物）ガイドライン（2013年改訂版）「Thrombosis Medicine」、5(3)：P270-274、先端医学社、2015年9月1日

是恒之宏：各領域専門医からみる抗凝固療法の課題とアピキサバンへの期待「Pharma Medica」33(9)：P67-73、メディカルレビュー社、2015年9月20日

是恒之宏：1日1回投与で安全性を確保しつつ有効性を示したエドキサバン「日経メディカル12月号」P100-103、日経BP社、2015年12月10日

篠内和也、安部晴彦、是恒之宏：【抗凝固薬】非ビタミンK阻害経口凝固薬（NOAC）「medicina」52(13)：P2326-2329、医学書院、2015年12月10日

是恒之宏：日本におけるNOACを取り巻く環境の変化ー最終号を迎えるにあたってーEditor's Eye「Clotman Press」24巻最終号：P7、2015年12月

安部晴彦、是恒之宏：循環器疾患 同種薬の特徴と使い分けー抗血栓薬（経口抗凝固薬、抗血小板薬）「今日の治療指針私はこう治療している 2016年版」P382-383、医学書院、2016年1月1日

是恒之宏：循環器疾患 抗凝固・血栓溶解療法「今日の治療指針私はこう治療している 2016年版」P387-389、医学書院、2016年1月1日

是恒之宏：NOACを正しく使用していくには？～日本での投与実態から考えるアピキサバンの役割～「Medical Tribune」49(4)：P8～9、(株)メディカルトリビューン、2016年1月28日

是恒之宏：いわゆる新規経口抗凝固薬と旧来のワルファリンの差異「循環器内科」79(1)：P41～44、科学評論社、2016年1月28日

安部晴彦、是恒之宏：心原性脳塞栓症の予防ーNOACかワルファリンかー「動脈硬化予防」15(1)：P11～16、メジカルビュー社、2016年3月10日

B-1

Koretsune Y：GARFIELD-AF Data showcase:Japan. European Society of Cardiology Congress2015, London、2015年8月30日

A.J.Camm, G.Ambrosio, D.Atar, E.Berge, F.Cools, S.Z.Goldhaber, G.Kayani, Koretsune Y,

A.G.G.Turpie, A.K.Kakkar : Evolving antithrombotic treatment patterns in patients with newly diagnosed atrial fibrillation in GARFIELD-AF. European Society of Cardiology Congress2015、London、2015年8月31日

Koretsune Y : Garfield-AF Data showcase:Japan. Garfield-AF Steering Committee and National Coordinator Council meetings、London、2015年10月23日

B-2

Inoue H, Abe H, Yasumura K, Nishida H, Shinouchi K, Miura H, Koide M, Date M, Koretsune Y, Kusuoka H : Predictive factors for echocardiographic overestimation of aortic valve area by continuity equation in patients with severe aortic stenosis. European Society of Cardiology Congress2015、London、2015年8月30日

Oh S, Goto S, P.Angchaisuksiri, A.J.Camm, F.Cools, S.Haas, Koretsune Y, T.W.Lim, G.Accetta, A.K.Kakkar : Vitamin K antagonist control in Eastern and Southeastern Asia. European Society of Cardiology Congress2015、London、2015年8月31日

Sakaguchi T, Shinouchi K, Miura H, Miyazaki K, Koide M, Abe H, Date M, Koretsune Y, Kusuoka H, Yasumura Y : The prognostic value of the transtubular potassium gradient in patients with acute decompensated heart failure. European Society of Cardiology Congress2015、London、2015年9月1日

B-3

Koretsune Y : Racial Difference Potentiates the Benefit of NOAC in Asian. 第79回日本循環器学会学術集会 ACC-JCS Joint Symposium、大阪、2015年4月25日

Y.J.Shimada, Yamashita T, Koretsune Y, Kimura T, Abe K, Sasaki S, M.Mercuri, C.T.Ruff, R.P.Giugliano : Effects of Regional Differences in Asia on Efficacy and Safety of Edoxaban Compared to Warfarin : Insights from ENGAGE AF-TIMI48. 第79回日本循環器学会学術集会 Featured Research Session24、大阪、2015年4月26日

是恒之宏 : NVAF患者の脳梗塞予防ー臨床試験から Real World へー。第37回日本血栓止血学会学術集会/第7回 Bayer Thrombosis Seminar、甲府、2015年5月21日

是恒之宏 : 市販後安全性調査の新しい取り組み。第37回日本血栓止血学会学術集会/第7回 Bayer Thrombosis Seminar、甲府、2015年5月21日

是恒之宏 : 超高齢社会における抗凝固療法の適正使用を考える。日本心臓病学会教育セミナーランチョンセミナー、東京、2015年6月14日

是恒之宏 : SP3-1心房細動における抗血栓療法への進歩。第63回日本心臓病学会学術集会 山口徹と学ぶ循環器病の最近の治療 Part I、横浜、2015年9月19日

是恒之宏 (コメンテーター) : Beneficial Effect of Non-vitamin K Antagonist Oral Anticoagulants in Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation: On-treatment Analysis of the J-RHYTHM Registry2. 第 80 回日本循環器学会学術集会 Late Breaking Clinical Trials/Cohort Studies II、仙台、2016 年 3 月 18 日

是恒之宏 : NOACs をどう使いこなすか How to Make Better Use of NOACs—One More Step—. 第 80 回日本循環器学会学術集会 モーニングレクチャー、仙台、2016 年 3 月 19 日

B-4

Sakaguchi T, Inoue H, Nishida H, Yasumura K, Furukawa T, Shinouchi K, Miura H, Miyazaki K, Koide M, Abe H, Hirooka K, Koretsune Y, Kusuoka H, Yasumura Y : Novel Quantitative Assessment of Fluid Accumulation and Its Prognostic Implication in Patients with Decompensated Heart Failure. 第 79 回日本循環器学会学術集会、大阪、2015 年 4 月 24 日

Sakaguchi T, Inoue H, Nishida H, Yasumura K, Furukawa T, Shinouchi K, Miura H, Miyazaki K, Koide M, Abe H, Hirooka K, Koretsune Y, Kusuoka H, Yasumura Y : Transtubular Potassium Gradient as a Novel Prognostic Factor in Patients with Decompensated Heart Failure. 第 79 回日本循環器学会学術集会、大阪、2015 年 4 月 24 日

Inoue H, Uchiyama S, Atarashi H, Okumura K, Koretsune Y, Yasaka M, Yamashita T : Interim report of Post-Marketing Surveillance on the Long-Term Use of dabigatran etexilate in Japanese patients with nonvalvular atrial fibrillation: The J-Dabigatran Surveillance. 第 30 回日本不整脈学会学術大会/第 32 回日本心電学会学術集会合同学術大会、京都、2015 年 7 月 31 日

安部晴彦、増田佳純、浅沼俊彦、郡山 晃、是恒之宏、楠岡英雄、中谷 敏 : 短軸像および長軸像からみた左室内渦流の定性的・定量的評価: エコー粒子画像流速測定法を用いた検討。第 63 回日本心臓病学会学術集会、横浜、2015 年 9 月 18 日

坂口大起、安村かおり、西田博毅、井上裕之、古川哲生、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安部晴彦、伊達基郎、是恒之宏、楠岡英雄、安村良男 : 急性心不全治療過程における腎機能低下は、細胞外液量が至適化した症例では予後を悪化させない。第 63 回日本心臓病学会学術集会、横浜、2015 年 9 月 18 日

小出雅雄、飯田吉則、鳥山智恵子、井上裕之、西田博毅、安村かおり、井手本明子、篠内和也、三浦弘之、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏、楠岡英雄 : 難治性高血圧に Ca 拮抗薬とグレープフルーツジュースの併用が有効であった一例。第 63 回日本心臓病学会学術集会、横浜、2015 年 9 月 19 日

是恒之宏、安部晴彦、小出雅雄、三浦弘之、伊達基郎、上田恭敬、西垣優子、楠岡英雄 : PT-INR 自己測定の意義—通常診療で TTR が安定している患者における検討—。第 63 回日本心臓病学会学術集会、横浜、2015 年 9 月 20 日

Koide M, Abe H, Yasumura K, Idemoto A, Shinouchi K, Miura H, Date M, Ueda Y, Koretsune

Y, Kusuoka H : A Case of Acute Decompensated Heart Failure with Preserved Ejection Fraction Treated by Heart Rate Control. 第 19 回日本心不全学会学術集会、大阪、2015 年 10 月 23 日

Sakaguchi T, Hirata A, Kashiwase K, Higuchi Y, Koretsune Y, Kusuoka H, Yasumura Y : Right Atrial Pressure Does Not Reflect Body Fluid Status in Repeater Patients with Acute Decompensated Heart Failure. 第 19 回日本心不全学会学術集会、大阪、2015 年 10 月 24 日

辻本有希恵、石山 薫、森下典子、松尾友香、阪崎志帆、柚本育世、田所知美、笹山洋子、名畑優保、是恒之宏、多和昭雄、楠岡英雄 : 「臨床研究に関する同意書管理マニュアル」の遵守状況について。第 36 回日本臨床薬理学会学術総会、東京、2015 年 12 月 9 日

Sakaguchi T, Hirata A, Kashiwase K, Higuchi Y, Koretsune Y, Kusuoka H, Yasumura Y : The Prognostic Value of Urinary Composition in Patients with Acute Heart Failure. 第 80 回日本循環器学会学術集会、仙台、2016 年 3 月 18 日

Yasumura K, Abe H, Iida Y, Toriyama C, Inoue H, Nishida H, Idemoto A, Shinouchi K, Miura H, Koide M, Date M, Ueda Y, Koretsune Y, Kusuoka H : Mitral Annular Plane Systolic Excursion Predicts Rehospitalization in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 第 80 回日本循環器学会学術集会、仙台、2016 年 3 月 19 日

Sakaguchi T, Hirata A, Kashiwase K, Higuchi Y, Koretsune Y, Kusuoka H, Yasumura Y : Normalization of Extracellular Volume Has a Stronger Prognostic Impact than That of Plasma Volume in Patients with Acute Heart Failure. 第 80 回日本循環器学会学術集会、仙台、2016 年 3 月 20 日

B-8

是恒之宏 : TTR が良ければいいのか? ~ 増えゆく高齢心房細動患者を見据えたアピキサバン選択のメリット ~。Spring Seminar ~ 明日から使える抗凝固薬の使い方 ~、神戸、2015 年 4 月 2 日

是恒之宏 : TTR が良ければいいのか? ~ 増えゆく高齢心房細動患者を見据えた NOAC 選択のメリット ~。Sagamihara Af total management seminar、相模原、2015 年 4 月 20 日

是恒之宏 : NOAC 大混戦時代の臨床現場の選択。Sagamihara Af total management seminar、相模原、2015 年 4 月 20 日

是恒之宏 : 脳卒中に直結する不整脈—心房細動治療の最近の話題。第 13 回湘南生活習慣病フォーラム、鎌倉、2015 年 5 月 22 日

是恒之宏 : NVAf 患者の脳梗塞予防—臨床試験から Real World へ—。第 4 回 Kumagaya Care AF 研究会、熊谷、2015 年 5 月 29 日

是恒之宏 : NVAf 患者の脳梗塞予防—臨床試験から Real World へ—。Thrombosis Management 2015 Xarelto The 3rd Anniversary、東京、2015 年 6 月 5 日

是恒之宏：“心房細動における抗凝固療法の今”を考えるー循環器内科医の立場よりー。名古屋カルディオロジーセミナー2015、名古屋、2015年6月6日

是恒之宏：TTR が良ければいいのか？～シリーズ2～最新リアルワールドデータからの考察：アピキサバン選択のメリット。エリキュース®インターネット講演会、2015年6月16日

是恒之宏：臨床試験から見えてきたエドキサバンの特徴。第445回徳島県中部臨床研究会、徳島、2015年6月19日

是恒之宏：研究テーマの選び方。平成27年度臨床研究のデザインと進め方に関する研修、国立病院機構本部研修センター、2015年7月24日

是恒之宏：脳卒中に直結する不整脈ー心房細動治療の最近の話題。第603回碧南市医師会医学研究会、碧南、2015年7月24日

是恒之宏：Real World Data から見る心房細動抗凝固療法。第25回九州不整脈研究会、博多、2015年7月25日

是恒之宏：脳卒中に直結する不整脈ー心房細動治療の最近の話題ー。豊川内科医会学術講演会、豊川、2015年8月20日

是恒之宏：NVAF 患者の脳梗塞予防ー臨床試験から Real World へー。イグザレルト®WEBカンファレンス、大阪、2015年8月24日

是恒之宏：世界の心房細動ガイドラインとアピキサバンの位置づけーグローバルな視点で読み解くー。脳卒中トータルマネージメントセミナー2015、大阪、2015年9月5日

是恒之宏：Real World Data から見る心房細動抗凝固療法。5th Network Meeting North Osaka city Anticoagulant Conference Meet The Expert、大阪、2015年9月9日

是恒之宏：脳卒中に直結する不整脈ー心房細動治療の最近の話題ー。日高医師会学術講演会、御坊、2015年9月15日

是恒之宏：臨床試験から見えてきたエドキサバンの特徴。抗凝固療法セミナーin紀北、和歌山、2015年9月26日

是恒之宏：SPAF 治療の Update (Stroke Prevention in Atrial Fibrillation)。THROMBOSIS EXPERT MEETING、東京、2015年10月18日

是恒之宏：脳卒中に直結する不整脈ー心房細動治療の最近の話題ー。名古屋掖済会病院医療連携システムセミナー、名古屋、2015年10月28日

是恒之宏：ENGAGE AF-TIMI 48 Update。Thrombosis Expert Meeting、東京、2015年11月3日

是恒之宏：NOACの新展開－Randomized Control Trial から実臨床データへー。プラザキサ[®]Web講演会、大阪、2015年11月17日

是恒之宏：ENGAGE AF-TIMI 48 Update。Thrombosis Expert Meeting、大阪、2015年12月13日

是恒之宏：レジストリ研究から見た日本の抗血栓療法。MASTERCLASS Premium Summit、東京、2016年3月13日